

『白痴1』 おもな登場人物



ムイシキン公爵（レフニコラーエヴィチムイシキン）……スイスで精神的な疾患の治療を受け、ペテルブルグに帰ってきた青年。癡癡も思う。子どものように、まれに見る純粹無垢な人格。

ロゴージン（バルフヨンセミヨノヴィチロゴージン）……列車内でムイシキンと知り合う。父親の莫大な遺産を相続した、情熱、直線、黒髪青年。

ナスターシヤ（ライリッポヴァバラシコワ）……絶世の美人。子どものころからトーツキーの「世話」を受け、ペテルブルグに出てロゴージン、ムイシキンらと出会う。

トーツキー（アファナーシートーツキー）……裕福な地主で、上流階級の人物。洗練されたセンスを持ち、ナスターシヤを「流の女に育て上げる」ため、教育をほどこす。

エバンチン將軍……ペテルブルグ在住の裕福な美学家、いくつかのビジネスに携わる財界の名士。五十六歳。子どもは美人三姉妹。夫人はムイシキンの家系に連なる**エリザヴェータ**。

白痴1

しおり（表面）

Y50
M80

DIC
2397p

アグラヤー（エシチナ）女性形は苗字の語尾がaになる）……二十歳。エバンチン家の末娘で、いちばんの美人。奔放な性格、一家のアイドル的存在。

アレクサンドラ（エバンチナ）……長女、二十五歳過ぎ。**アデライーダ**（エバンチナ）……次女、二十三歳。姉妹三人はそれぞれ教養、知性才能に優れる。

ガーニャルガウリーラ（イヴォルギン）……ビジネスでエバンチン將軍に仕える秘書。母の**ニーナ夫人**、妹の**ワルワラ**、父親の**イヴォルギン將軍**と確執がある。**コーリヤ**「十三歳」は末の弟。

レーベジェフ……列車内でムイシキン、ロゴージンと知り合う。社交界その他、多方面の消息通。のちにロゴージンと行動をとる。

白痴1

しおり（裏面）

Y50
M80

DIC
2397p